

「Teacher Agencyの高揚を考える」 フィンランドと日本の共同研究

四天王寺大学 柏木賀津子, Ph.D.

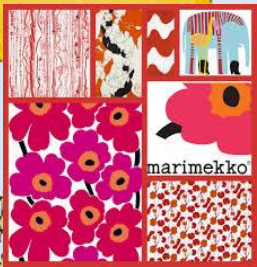
kashiwag@shitennoji.ac.jp 2023年7月25日@Miriz

国際共同科研B 「グローバルスクールリーダーの資質一向社会性形成への日本とフィンランドの共同研究」2019-2023 (柏木, 矢田匠, 池田真, Nikula, T)

フィンランドと日本



We are neighbors?



18th Century Fi最古



7th Century 日本最古



Kuksa



People naked enjoy and chat with friends



海外実習Project 2012-2015

物理 CLIL



Taiwan, Electromagnetics



Finland, Paper Plane: Hovering



Sweden, The Center of Gravity



Korea, Surface Tension



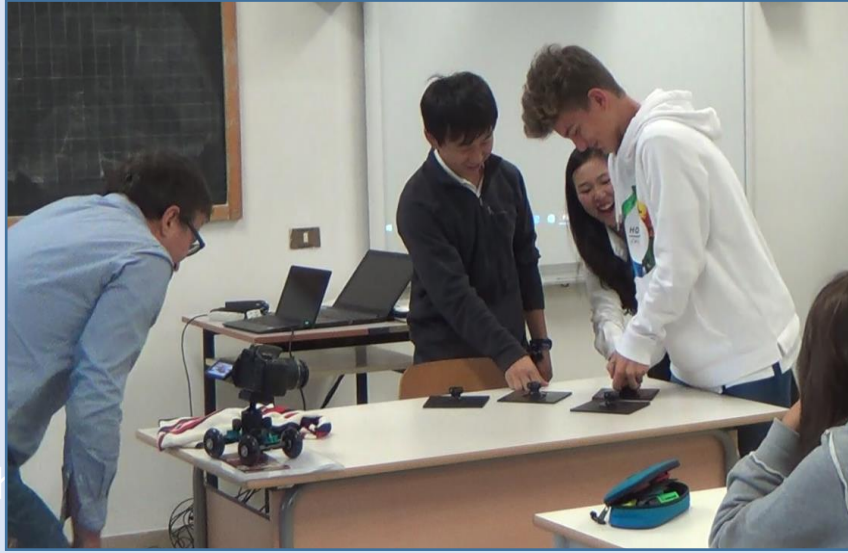
Korea, 3-D figures



Italy, Light spectrum

2015 物理 CLIL

Italy, Romano Bruini · Age 17



1st: Categorize



2nd: Apply → Hypothesize



3rd: Define → Transfer

Wonder of Air
”Air pushes things”

Science-specific Language (言語)

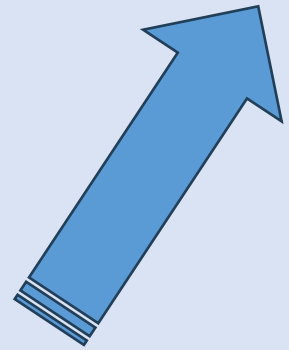
×

Scientific Thinking (思考)

”The rubber plate sticks to the table because air pushes things.” サイエンスの言語を学ぶ

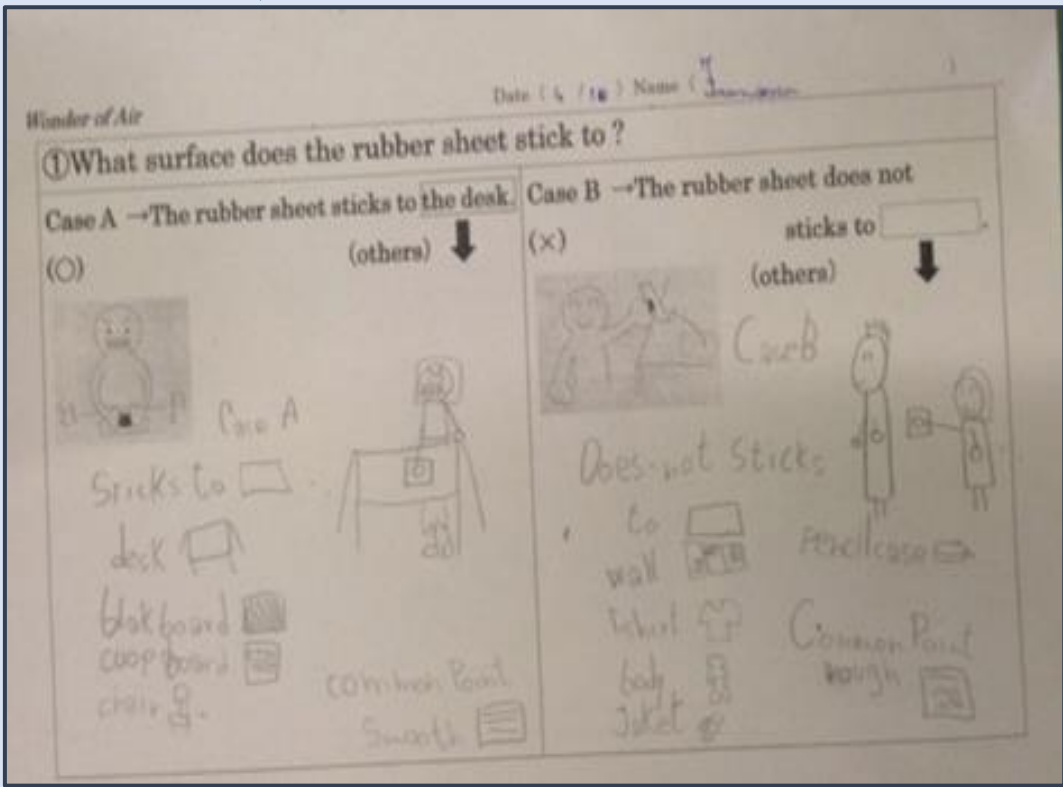


The improvement of children's thoughts
生徒の思考がどう進んだかのプロセス重視

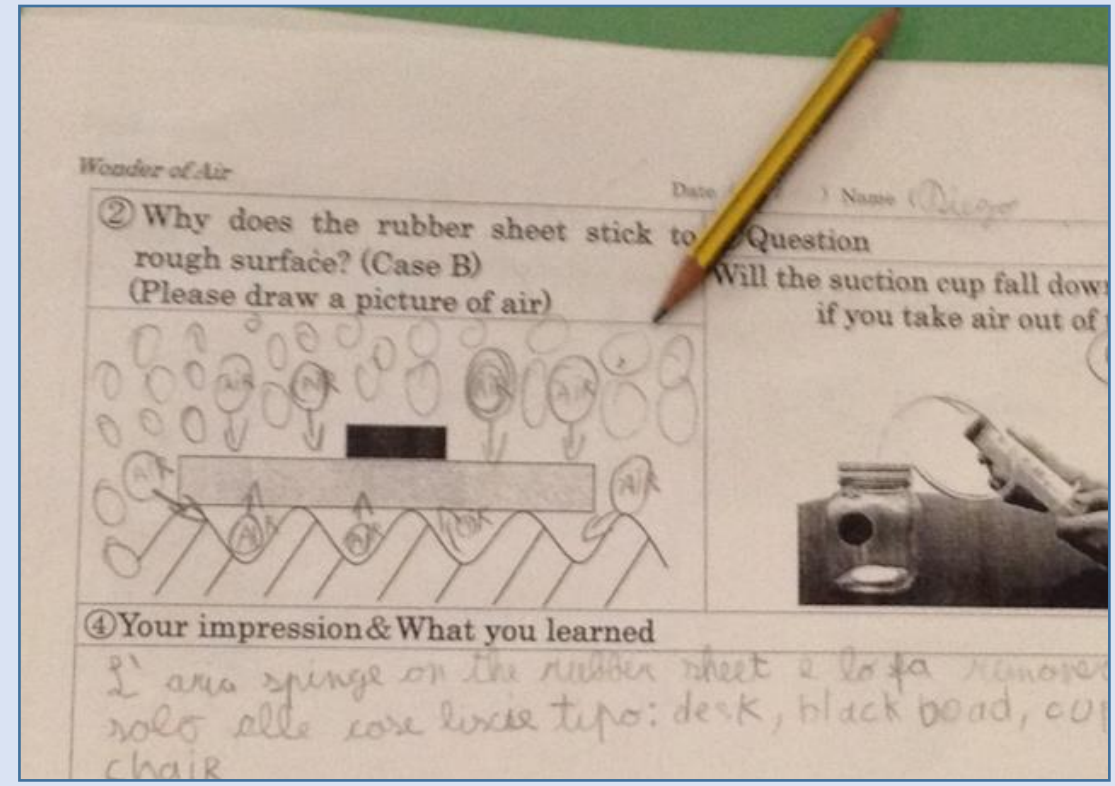


子どもは
Transferable
Skills (転移スキル) を学ぶ

Learning by Doing



Scientific
Thinking



2019年 滞在先 ユバスキュラ大学

Center for Applied Language
Studies (CAL S)
博士課程応用言語研究所

修士と博士教育は英語で行われている
教育学部は内容により、フィンランド語
世界の教員養成大学ではトップ3%に位置



Erasmus + 教員がG-Contactを



CLIL (教科連携) 教員講義を担当



中学校 カフェルーム
学校運営について、校長シャドーイング

国際共同研究スタート

リサーチミーティング
博士課程の運営

所長 Nikula, T.

CLIL 教員養成
J. Moate

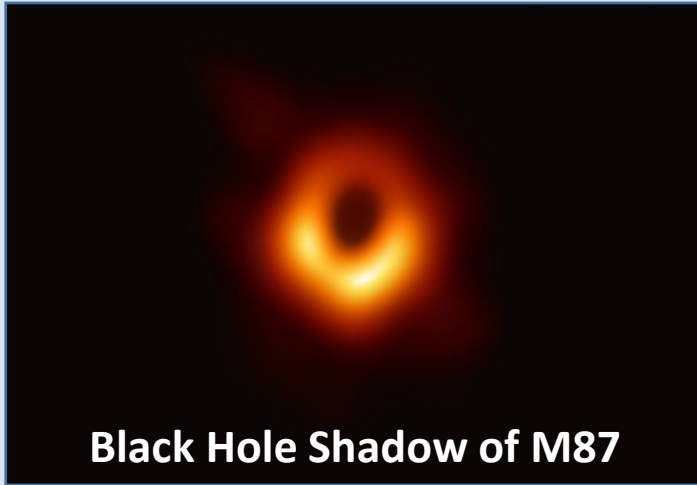
J. Moate

リーダーシップ研究
フィンランドの校長研修

Mika Risk / T. Yada

PISAの順位 < プロセス重視 内容の濃さ

21世紀の社会を支える 地球規模の協働的なプロジェクトは、〇〇国が〇位という議論ではない。



私たちは、一世代前ならまったく不可能であったことを成し遂げた。(2019年4月10日)

- 技術的なブレイクスルー、
- 世界中の最高の8つの望遠鏡たちをつなぐ
- 革新的なデータ処理アルゴリズム
- 6本の論文

すべてがあわさって初めてブラックホールと事象の地平面に対するまったく新しい窓を開いた。



『アストロフィジカル・ジャーナル・レターズ』特別号に2019年4月10日付

海外の教育の話をする前に

日本の教育は、〇〇だ。

丁寧
個別補習

クラス人数
多(40人)

予算が少
ない

学校と教師
の自立性

教師の多忙
(説明・生活
指導・部活)

現職教育
に良さ?

フィンランドの教育は、〇〇だ。

行き届く
個別指導

学校と教師
の自立性

予算が多
い

クラス人
数少
(18人)

教師の余裕
(16時帰宅?)

教育実習
の充実?

主張してみよう イメージ・独断でかわまない

多くの国で上手くいってない点が、両国では進んでいて、教育者の手によって工夫の余地があること（私見）

日本の教育

学校と教師
の自立性
(?)

現職教育
に良さ
In-Service

授業の充実
「教えて考え
させる」

フィンランドの教育

学校と教師
の自立性

教育実習
の充実
Pre-Service

フィンランドと日本の教育の類似と相違

(一般的データから)

福田,2007 Sahlberg, 2011

+母語+2~3言語
コミュニケーション
力

+勉学に関する
ICTリテラシー

+論理的思考
+シチズンシップ

プロセス重視 How

☑理数に少し課題

共に学力はトップクラス

母語リテラシーもトップクラス
(日本は特に)

☑シャイ

☑自己効能感が低い

+理数はトップクラス

+日本固有の文化魅力

+集団・チーム・規律?

結果重視? What

☑シチズンシップ

☑コミュニケーション力



政治の力 < 教師・親 一人ひとりの総和？

教育制度の変遷

誰が？ FPSTA (フィンランド小学校教員連合) が5年間の国民的議論のもと提案し、社会の力が教育政策に大きな影響を与えた。

中学校入学者が増えた

34,000人 (1956年) → 32,4000人 (1970年)



Basic Education for Children

全ての学校で可能な Robotic Week 2018

全ての生徒に同じ教育を与えても同じ成果が出るとは限らないが、フィンランドは産業国家を目指し、将来に何をを目指すかはわからない、全ての子どもに16歳までの教育を等しく準備する。

Aho, et al., 2006

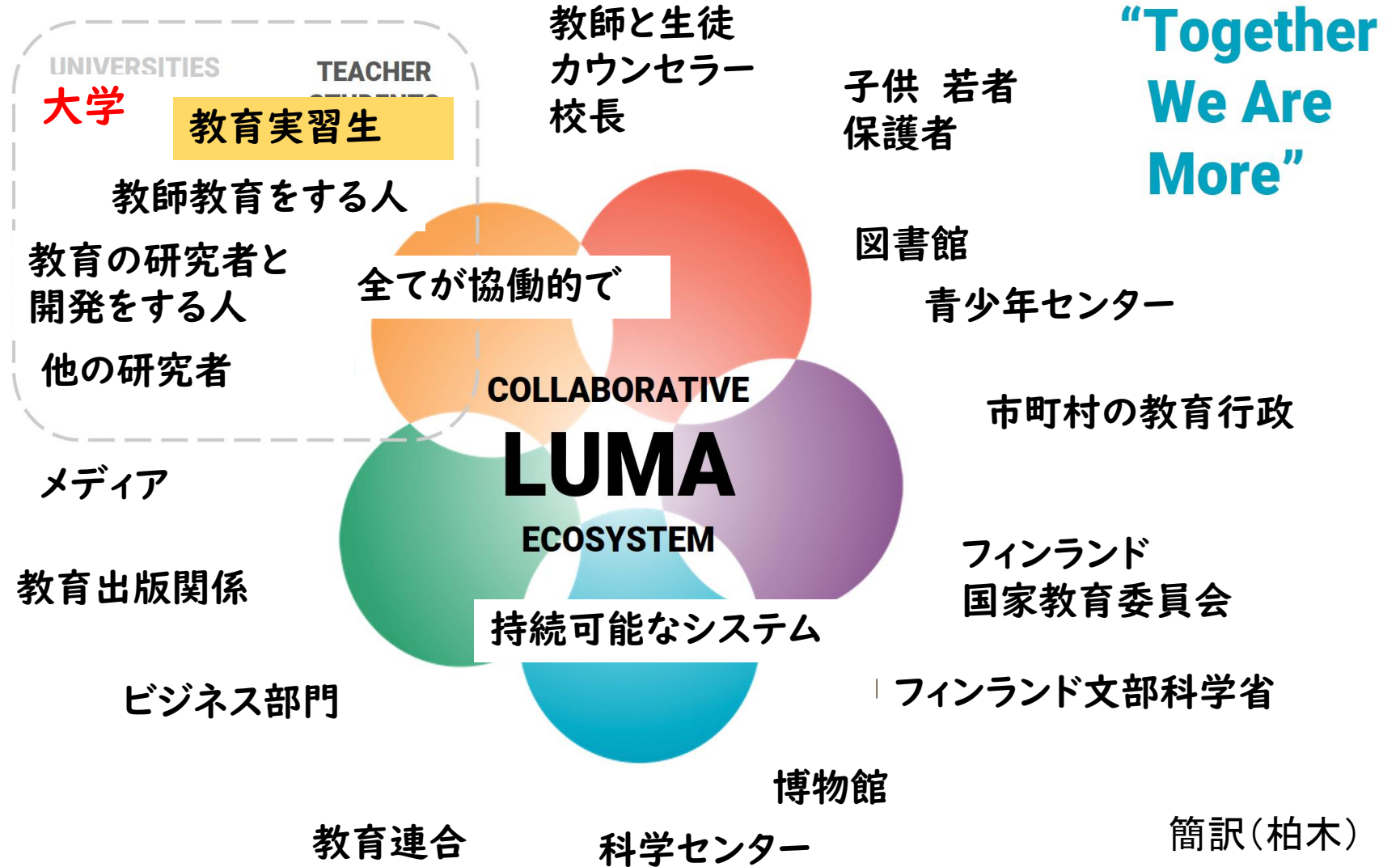
現象ベースの学習

Phenomenon-based Curriculum

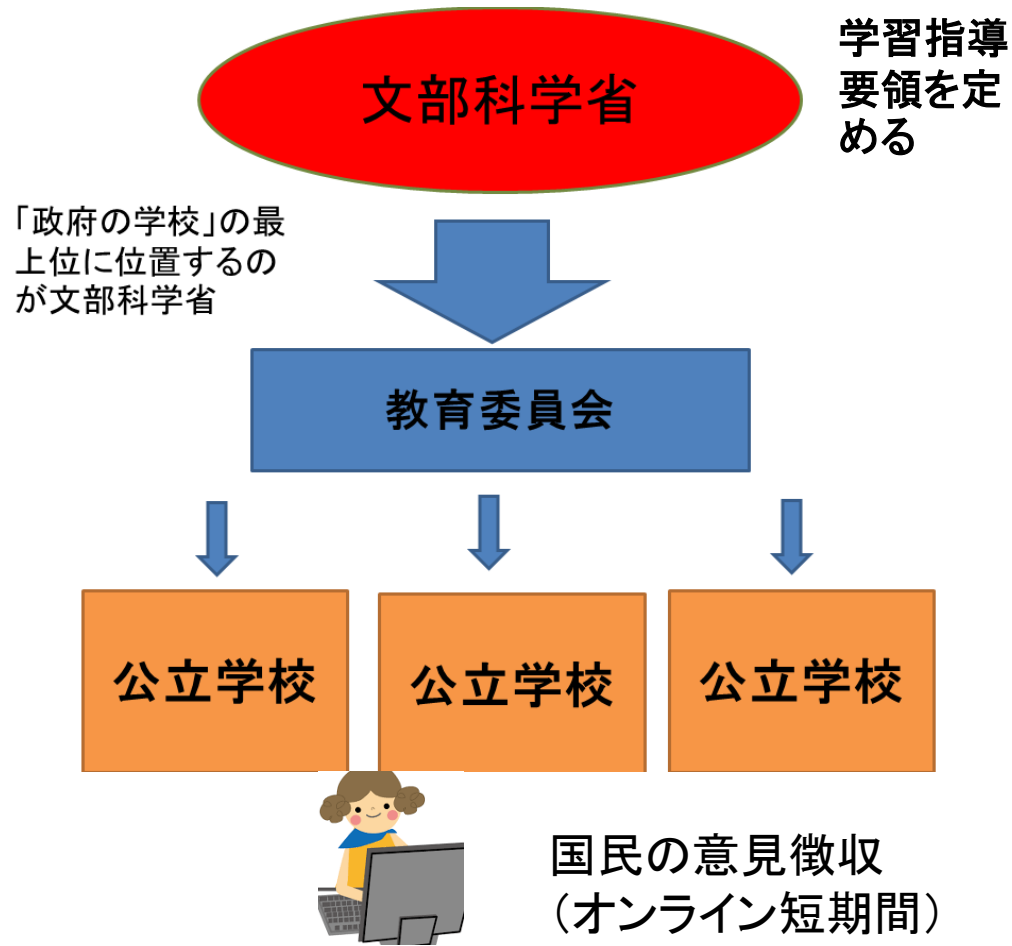
(フィンランド新学習指導要領一次世代へ)

Rubric

- 1) 全体的・包括的
- 360°の視野
- 2) 真正性
- 実際の世界・社会に直結
- 知識を使うように
- 3) 自然な文脈で
- 生徒は、曖昧で明確でない前もって定義されていない問題を考える 現象はセツされない
- 4) 必要性のある問題解決
- 5) 学習のプロセス
目的は、生徒が新しい何かを学ぶことをファシリテートすること



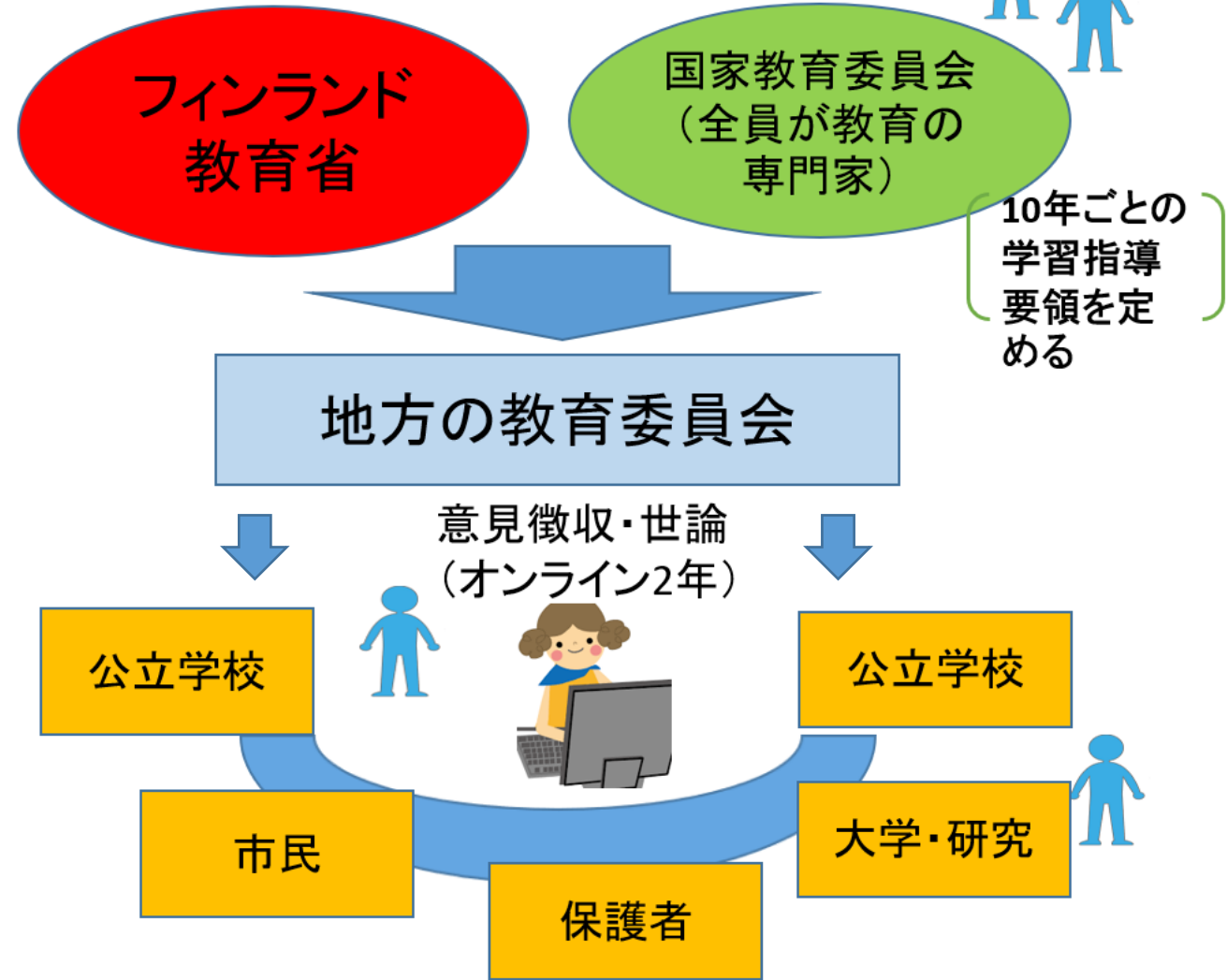
教育システム(日本)



教育システム(フィンランド)



Minister of Science and Culture 2019~
Hanna Kosonen, MA. 研究・図書館・博物館等



世界大戦のつめあと デモクラシーへの痛感



今は幸せの象徴に
ロバニエミの
サンタクロース村

2大国の間で
揺れた続けた歴史



独立記念日の トーチに参加
12月6日
学生たちの真剣さを知る

平和について学ぶ授業
(CLIL: 硬貨と切手)

21世紀型スキルを育成する世界の学校で課題として
いる→不確実な未来の社会の構築をする

21世紀の学校教育における、目的と実情の乖離

トップダウンで先進的教育改革が提唱されたとしても、それが達成されることは難しいと指摘されている(Calvert, 2016)。目的と実情が大きく離れてしまえば、日本の学校現場側にも諦念が広がることが懸念されるであろう。

ではどうやって？

国際共同研究

Teacher Agency（運営行為への価値）

スクールリーダーは、多様化する社会について複合的視野を持ち、自らの職（校長や教育リーダー）としてのキャリアと持続可能な地球社会への貢献をするという考え（Teacher Agency）のもと、リーダー相互協働と、企業・多機関連携プログラムを深める

（ユバスキュラ大学における研究）

Japannin, 2017

Hallinger and Heck, 2010

研究の問い 教師のTeacher Agencyの高揚に与える経験とは？
教育改革にどの程度、影響を与えることができるのだろうか？

K, Leena先生

フィンランド小4 国語

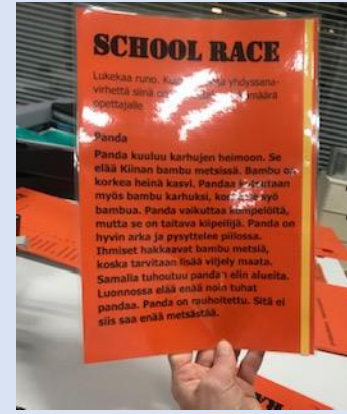
Functional Learning (FL) のようす



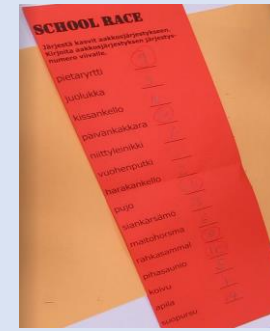
目当ての提示



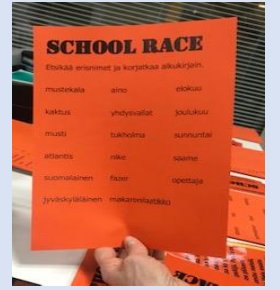
内容はグループで読む



Task 1 協力して
アルファベット順に



Task 1-7
Fi語の文の
ルールに気づく



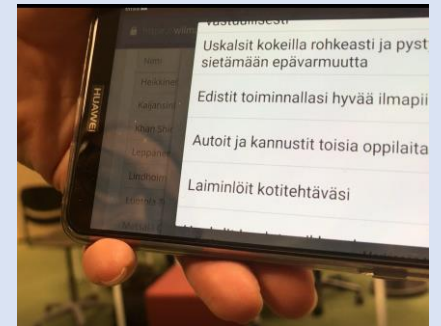
Task を解決してはLeena先生がそれぞれにフィードバック



問い→グループワーク



この間、ドイツからの訪問者に授業の意図を伝達



保護者にも、Ongoing
(今) 評価・助言
WILMA アプリ

まとめと自己省察に
じっくりかける。

Teacher Agencyが形成（高揚）される要因とは？（仮説）

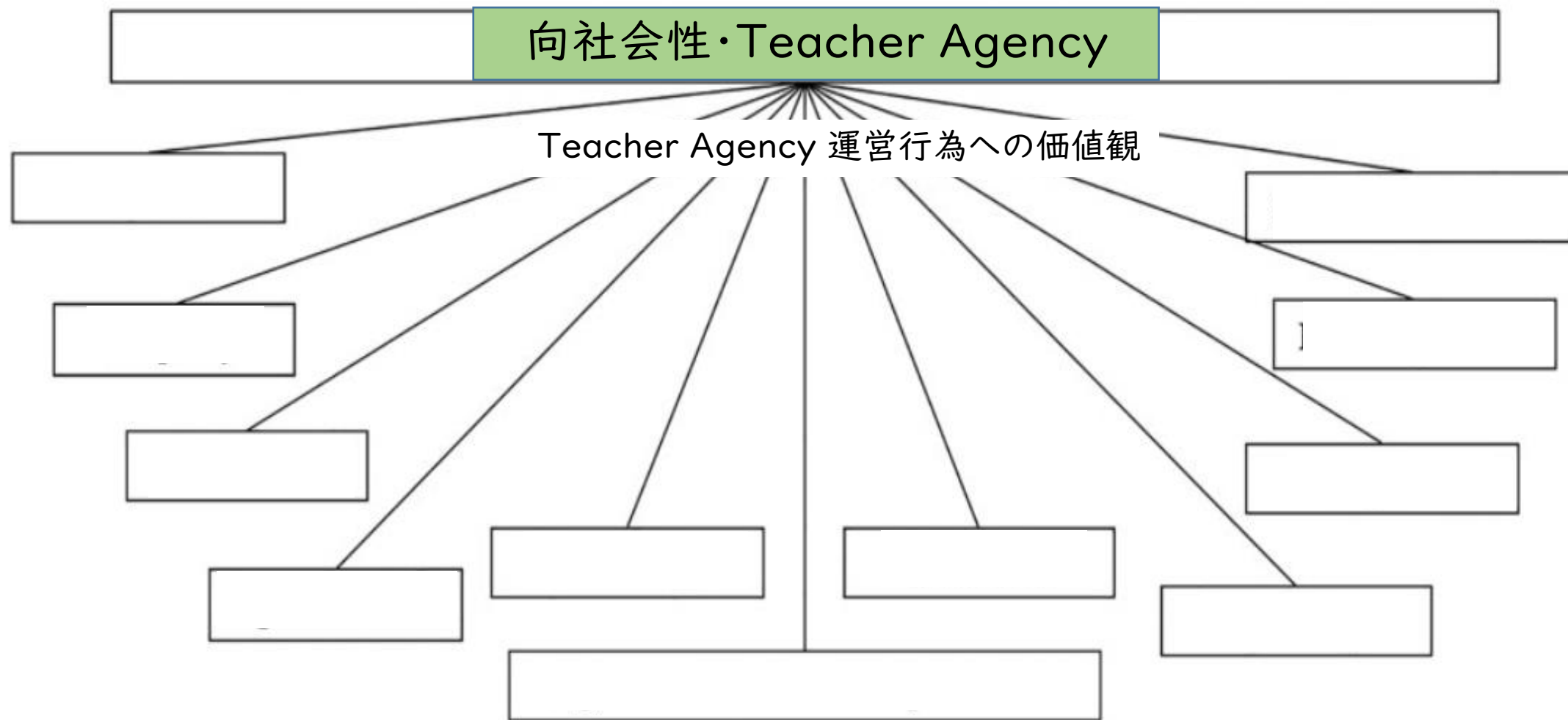


Figure 1. Conceptual model of prosocial elements in educational leadership.

教師のTeacher Agencyが形成（高揚）される要因とは？（仮説）

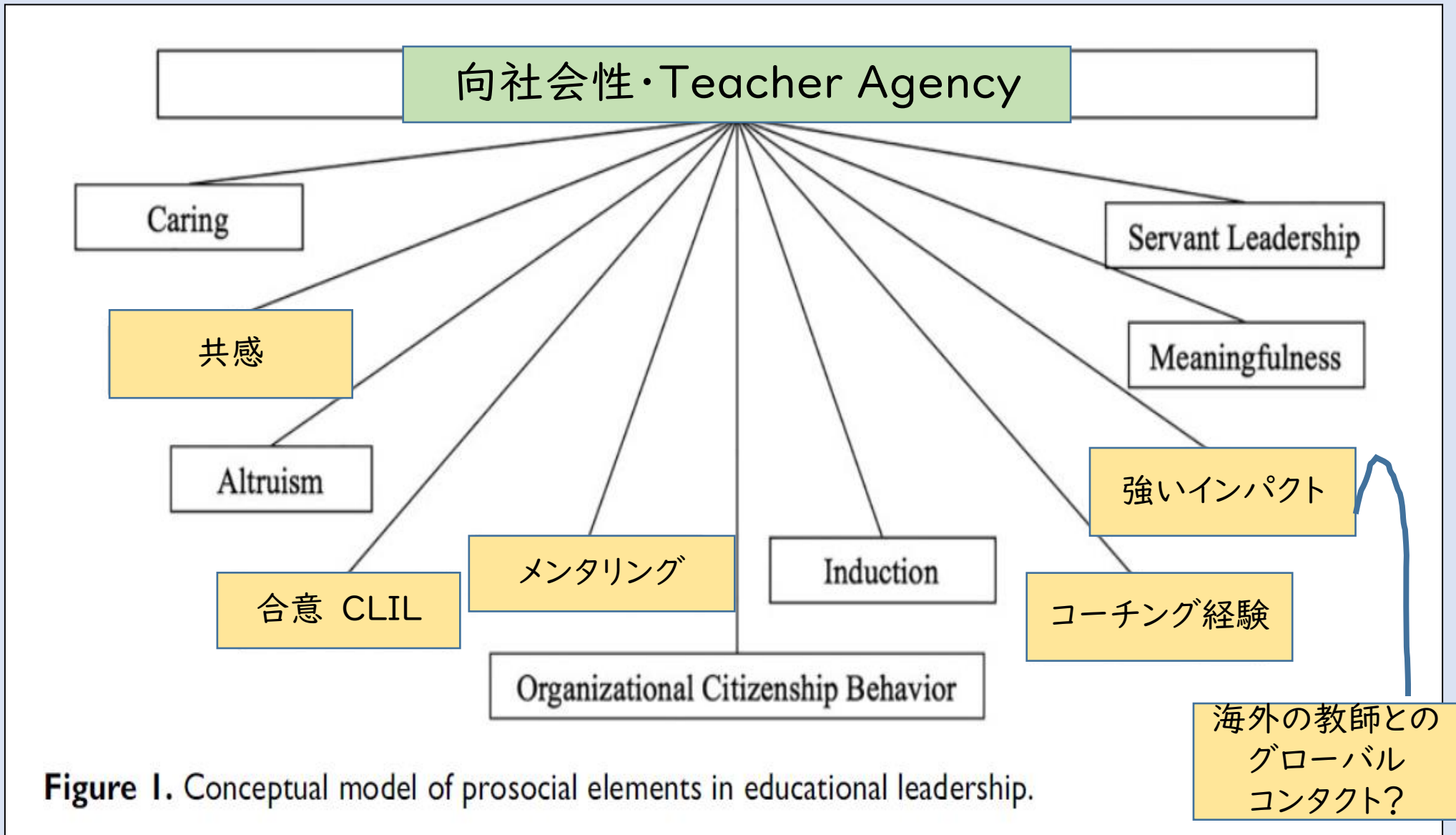


Figure 1. Conceptual model of prosocial elements in educational leadership.

Teacher Agency : 校長やリーダーとしての自主的なやりがいであり、組織メンバー全員の主体性をリーダーシップのリソースとしながら、組織の運営行為に参加していく意識や行動 柏木・宍戸・矢田(2021)-大阪市実践中(北谷)

アンケート質問例から Teacher Agency

わたしは、ワーキングチームにおける意思決定に参加できる。

Teacher Agency 17-3 例

わたしは、自分の仕事のやり方を改善している。

Teacher Agency 17-10 例

国際共同科研B 「グローバルスクールリーダーの資質一向社会性形成への日本とフィンランドの共同研究」2023（柏木賀津子, 矢田匠, 池田真, Nikula, T他）

CLILとTeacher Agency アンケート参画依頼 (Consent フォーム 含む)

CLILと職場のチーム形成

日本語 10min



<https://forms.gle/TtqMfG4D56wds2MTA>

CLIL & Workplace Team Formation

English 10min



<https://forms.gle/5MgaerT7qrTLiFjQ8>



校長をめざす 30代後半～Teacher Agencyの形成に着目
フィンランドのサンナ・マリン首相は37歳 校長先生も若い



1 インフォーマル&フォーマルの両方で継続的に

現職校長先生の シャドーイング 体験

ベテラン校長へのインタビューにでかける（メールでアポ取り）

2 リサーチ型（探究型）

一人ひとりテーマを持って、1年15回×2年 遠隔で 校長ペアリング
大学へ出張学習→博士号を持つ校長が増える

3 系統性のあるトップダウンと、市民意識的なボトムアップ

大学×自治体で 研修を創りあげる チームでこたえを創る

校長昇格試験へ条件整備としてボトムアップの校長研修もある

スクールリーダーシップの概念作りや力量形成は、校長研修で知識注入では効果がないことが実証されているため、思考・対話・経験をとおした、校長研修を推進している。（世界ではフィンランドのみの取り組み）

アメリカ合 と フィランドの教育改革 2000～現在 道のりの比較

トップへの競争
レースが増加

落ちこぼれを出さない
ために学校選択制
度・競争へ

USA:

競争原理

落ちこぼれを出さない政策(学力
のスタンダード評価・結果と予算)

学校選択制度

バウチャー制度

学校格差

6歳から生徒の
自律性を
博士まで無料
国民は知識基盤

教師は自立して考え
る。学校を知っている
のは教師だからという
信頼

Finland:

平等性

教師の自治・自律性

良い教師

教師への信頼

特別支援の必要な児童への予算確保
学費・給食無償

日本の教育が目指す方向はどちら？

わたしたち教員・親・国民のAgencyを

参考文献

Biesta, G., Priestley, M. & Robinson, S. (2015). The Role of Beliefs in Teacher Agency. *Teachers and Teaching: Theory and Practice*, 21(6).624-640.

Emirbayer, M. & Mische, A., (1998) What is agency?, *The American Journal of Sociology*, 103, 962-1023.

Moate, J. (2017). Teacher agency within the Finnish CLIL context: tensions and resources. *International Journal of Bilingual Education and Bilingualism*, 65, 61-7

Sahlberg, P. (2011). *Finnish Lessons*, New York and London: Teachers College, Columbia University.

Yada, T., Jappinenn, A..(2018). A systematic narrative review of prosociality in educational leadership, *Educational Management Administration & Leadership*, doi: 10.1177/1741143218768579

福田誠治(2007) 競争しても学力行き止まり 東京:朝日新聞社

Hayashi, K. (2015) . Edu-Port <http://shinshuedu.blogspot.com/2015/09/blog-post.html>

PHenoBL Learningの映像

<https://www.bbc.com/news/world-europe-39889523>

国際共同科研B 「グローバルスクールリーダーの資質一向社会性形成への日本とフィンランドの共同研究」2023 (柏木賀津子, 矢田匠, 池田真, Nikula, T他)



<https://forms.gle/TtqMfG4D56wds2MTA>
日本語版



<https://forms.gle/5MgaerT7qrTLiFjQ8>
English Version

